

## 仙台市地震防災アドバイザー室へようこそ!



いつもご覧いただきありがとうございます。

今回の更新で 23 回目となりました。

100 万人の防災! 「生き残り」「生き延びる」ための地震対策を始めましょう!

### ■新潟県中越地方を地震が襲いました。

平成 19 年 8 月 21 日掲載

平成19年7月16日10時13分頃、新潟県中越沖を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生し、新潟県柏崎市などで震度6強の強い揺れを観測しました。

8月8日10時30分総務省消防庁の発表では、亡くなられた方11名、負傷された方が1,987名、建物の被害は35,842棟に及んでいます。

今回の地震でお亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ケガをされた方、住宅等に被害を受けた多くの皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。

仙台市消防局も当日10時40分に消防庁長官から要請があり、緊急消防援助隊(ヘリコプター1機、車両2台)を派遣しました。

私も第四次派遣隊で新潟へ向かい、指揮支援隊として新潟県庁の災害対策本部で活動に当たりました。

### 「生き残る。」

やはり今回も、建物の倒壊による圧死、家具家電の転倒・ガラスの飛散による負傷といった被害が発生しました。

今一度、ご自宅の耐震性を確認してください。

第16回 地震対策のおさらいの回でもお話しましたが、昭和53年に発生した「宮城県沖地震」を契機に昭和56年6月に建築基準法の大改正が行われ耐震基準が大幅に強化されました。

下の写真をご覧ください。

今回の新潟県中越沖地震の被害状況を撮影してきたものの一部です。

激しく倒壊した建物の周りに、無事な建物が建っているのが見えませんか？

おそらくこれが、昭和56年以前に建築された「旧耐震の建物」とそれ以降の基準で建てられた「新耐震の建物」の違いだと思われます。

仙台市でも耐震改修に関して助成を行っています。



「応急危険度判定士」の方が被災を受けた建物を診断してこのような紙を貼っていきます

「生き残る。」ための「第一歩」、建物の耐震診断と耐震改修や家具の固定などをしてセーフティスペース(生存空間)を造るなど、もう一度見直しましょう。

特に耐震改修については、「壁や柱の補強」、「基礎の補強」、「屋根の軽量化」などさまざまな方法がありますので、自宅に合った方法を見つける必要があります。

仙台市では、木造住宅の耐震化に関して建築士など専門家による相談会を毎月

第三水曜日に開催しています。

ご自宅の耐震化などについて、ぜひ相談されてみてはいかがでしょうか。

### 「生き延びる。」

避難所になった小学校・老人福祉センターなどでは以下のような状況が見受けられました。



左の写真のように、至る所に道路の亀裂、陥没、隆起がありましたが、工事関係者の方の弁を借りると、三年前の経験が活かされていて、急ピッチで応急措置が進んでいるとの事でした。

早くに輸送路が整備されたおかげで、右の写真のように避難所へ「腎臓病食」「糖尿病食」といった物資もスムーズに送られていました。



左の写真は近隣の人たちが持ち寄った「お米」です。

やはり「いざ」という時の共助の体制は今のうちから整備したいものです。

右の写真は福祉避難所にあった「優れもの」です。

仮設トイレなどイベントなどで見かけるトイレもいっぱいあったのですが、これは高齢者や障害を持っている方も楽に使えるものです。しかも臭わないものでした。



自衛隊の設営したお風呂です。

関西から派遣された部隊らしく「六甲の湯」という名前が付いていました。

お湯につかると萎えた気分もよみがえるようです。不思議ですね。

私は地震対策の一番は、地震の被害を想定する、イメージすることから始まると考えます。

今現在の状態でどのような被害が発生するか。毎日の生活パターンから想像してみてください。

「今、ここで地震に遭ったら・・・」

新潟で起こった被害を「対岸の火事」とせず、自分にも起こりうることとして考えてください。

**地震は24時間365日、いつ、どこでやって来るか分かりません。**